



まずは、単元のねらいと評価規準を設定しましょう

- ねらい・マット運動の行い方を理解するとともに、回転系や巧技系の基本的な技を安定して行ったり、その発展技を行ったり、それらを繰り返したり組み合わせたりすることができるようにする。(知識及び技能)
- ・自己の能力に適した課題の解決の仕方や技の組み合わせ方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができるようにする。(思考力、判断力、表現力等)
 - ・マット運動に積極的に取り組み、約束を守り助け合って運動をしたり、仲間の考えや取組を認めたり、場や器械・器具の安全に気を配ったりすることができるようにする。(学びに向かう力、人間性等)

評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①マット運動の行い方について、言ったり書いたりしている。 ②自己の能力に適した回転系や巧技系の基本的な技を安定して行ったり、その発展技を行ったりすることができる。 ③選んだ技を繰り返したり、組み合わせたりすることができる。	①自己の能力に適した課題を見付け、その課題の解決の仕方を考えたり、課題に応じた練習の場や段階を選んだりしている。 ②課題の解決のために自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。	①マット運動に積極的に取り組もうとしている。 ②学習の仕方や約束を守り、仲間と助け合おうとしている。 ③仲間の考えや取組を認めようとしている。 ④場や器械・器具の安全を確かめている。

つぎに、ゴールを見据えて単元を構想しましょう

※評価の詳細については Web 版を参照

単元の指導と評価の計画

(丸数字は単元の評価規準と関連付けて評価の重点を示しています。)

時間	主な学習活動など	知	思	態
1	単元全体のめあてを確認し、学習の見通しをもつとともに、自分のできる技を確認する。			④
2	いろいろな技に挑戦する。(開脚前転・開脚後転など)	①		
3	いろいろな技に挑戦する。(跳び前転・伸膝後転・側方倒立回転など)		①	②
4	友達と意見を交流しながら、自分の選んだ技を練習する。		②	③
5	自分のできる技を組み合わせ、連続技に挑戦する。	②		①
6	自分の能力に適した技を発表する。	③		

単元の見通し

マット運動はできる・できないという観点から、苦手意識をもちやすい傾向があります。そのため、技を身に付ける楽しさや喜びを味わえるよう、練習の場や方法を工夫したり、児童同士の意見交流による学び合いを大切にしたりして、単元を展開していきます。また、本時のめあてと個人のめあてとの関係性を児童に意識させることで、より具体的な授業の見通しをもって学習に取り組めるようにします。



ICTの活用

学習の見通しがもてるよう、各自のタブレットに単元の学習計画や、毎時間のめあてと振り返りが記入できるスライド等を全時間配布しておきます。これにより、練習中に自分のタイミングで動画を見て手本を確認したり、気付きを書き込んだりすることができるようになります。また、動画を見ることで技のイメージをつかんだり、遅延再生アプリで自分の動きを実際に目で確認したりすることができ、課題の解決に向け学びを深めることができます。

本時のねらい 課題解決のために、自己や仲間の考えたことを他者に伝え、選んだ技に挑戦することができる。

この時間は、もう少しでできそうな技を繰り返し練習して、友達と意見を交流しながら技の完成度を高めていく時間です。前時までの児童の気付きからまとめたよい演技のポイントを基に、自分や友達の演技のよい点や改善点について話し合います。

学 習 活 動

1 準備運動をする。

2 本時のめあてを確認する。

自分で選んだ技の完成度を上げるために、友達と意見を交流しながら練習しよう。

- ・前時に設定した個人のめあてについても確認する。
- ・よい演技のポイントを確認する。

3 友達と意見を交流しながら、自分で選んだ技の練習をする。

- ・友達にどこを見てほしいかを伝えてから、技を行う。
- ・練習中の気付きは、その都度タブレットのスライドに記入したり、ホワイトボードに記入したりする。

4 グループでミニ発表会をする。

- ・練習した技を一つ選んで発表する。
- ・よい演技のポイントを視点に、友達の演技のよいところを伝え合う。

5 本時の振り返りをする。

- ・振り返りをスライドに記入する。
- ・それぞれの振り返りを共有する。



本時の見どころはココ！

- ・自分のめあてや気を付けたいポイントを友達に伝えることで、アドバイスの視点をはっきりとさせることができます。



- ・前時までの児童の気付きから出た、よい演技のポイントが友達にアドバイスをする際の視点にもなります。



ぼくは、跳び前転に挑戦するよ。手を着く位置に気を付けて練習するから、そこを見ていてね。

- ・演技後すぐに自分の動きを確認することで、課題を把握しやすくします。モニターを見ながら話すことで、具体的にアドバイスをすることができます。



- ・手本となる動画を見たり、これまでの友達の気付きが書かれたホワイトボード（アドバイスボード）を見たりして、自分の練習の参考にします。



開脚後転は、立つときに手でマットを押すといいて書いてあるよ。

なるほど！うまく立つことができなかったから、試してみよう。



児童の振り返り

動画やアドバイスボードを見て、どんなコツがあるか探しました。開脚後転では手でマットを押すことを意識するといいて友達から教えてもらい、そのとおりにやってみるとスムーズに立つことができました。友達に見てもらったりモニターで見たりすると、横に曲がっていたのでまっすぐに回れるようにしたいです。あとは足を開くタイミングを考えて練習したいです。

最後に、単元を振り返り、児童にどんな力が身に付いたか確認しましょう



児童がマット運動で技を身に付ける喜びや楽しさを味わえるよう、練習の場や方法を工夫し、児童同士の学び合いを多く取り入れました。遅延再生アプリで撮影した動画や見本の動画を用いることで、自分の動きを確認したり、技のイメージをつかんだりすることができ、より具体的に自分に合った課題を設定することができました。課題がはっきりすることで、解決の見通しをもちながら友達と意見を交流することができ、単元を通して効果的にICTを活用することにより、一人一人の児童が主体的に学習に取り組むことにつながりました。